

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	血液ポンプによる赤血球の壊れやすさを計測する試験 (ヒト血液を使用した血液ポンプの溶血試験)
研究期間	2017 年度 ～ 2022 年度
研究機関名	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
研究責任者職氏名	主任研究員 小阪 亮

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

重症心疾患の患者様を救命するため、血液循環を助ける最新式の血液ポンプの開発を行っています。血液ポンプに血液を流すと、血液ポンプ内で生じるせん断応力という作用によって、赤血球が壊れてしまう「溶血」という現象が生じることがあります。溶血が生じると、貧血や腎不全を引き起こします。これまでは、食肉工場から副産物として得られる食肉動物の血液を使った物理学実験によって、血液ポンプの溶血量を調べてきました。しかしながら、動物の赤血球の大きさは、ヒトと比較すると小さく、同じせん断応力でも壊れ方が異なります。従いまして、動物の血液を使用した溶血試験では、血液ポンプの溶血特性を正確に評価することが難しくなります。そのためには、ヒト血液を使用した溶血試験が、血液ポンプの開発には必要不可欠となります。

そこでこの研究では、いただいた献血血液を使用することで、臨床で使用する血液ポンプの正しい溶血量を求めることを目的としています。現状で使用している血液ポンプ、またはこれから使用が期待される新型の血液ポンプについて、臨床現場と同じ基準で溶血量を計測することができるようになります。このことは、血液ポンプの溶血特性について、過小評価も過大評価することなく、心疾患患者の治療に対して安全な指標を提示することができるようになります。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：全血（規格外）

献血血液等の情報：なし

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

東北大学加齢医学研究所 山家智之

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

血液ポンプと血液バッグをつなげた閉回路作成して、血液循環させます。4 時間までの試験時間に対して、1 時間ごとに血液をサンプリングし、破壊した赤血球数の中から溶け出るヘモグロビン濃度を測定することで、溶血量を求めます。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記5を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

29J0061

本研究に関する問い合わせ先

所属	健康医工学研究部門 人工臓器研究グループ
担当者	小阪 亮
電話	029-861-7016
Mail	ryo.kosaka@aist.go.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。

0000-00